

作品の説明

遺跡の子

日本画院展入選作品（東京都美術館）

日本画 80号

作者 宮澤千秋

（日本画院会員、日本美術家協会  
会員、富士川町青柳）

カンボジアは1863年から100年も続いたフランスによる植民地。1970年代に内戦で国内は大混乱した。この中でポルポト政権による大虐殺があった。1991年のパリの平和協定により新生カンボジアが誕生した。

不幸な歴史の中で生きてきた人々の生活は今も貧しい。世界遺産のアンコール遺跡の片隅に、空腹をしのぐ子ども達の姿が目立つ。遺跡のあちらこちらでは少年少女の物売りが目立ち、家庭の現金収入の助けをしている。

現地では戦争の負の遺産である地雷が沢山残り、森へ入る子ども達の被害が後を絶たず、脚や手を失っている子ども達がたくさんいる。

施設の貧弱な学校へは白根の久保さんは数回の訪問をしている。同じく、南アルプス市の方は地雷撤去の活動を長年続けています。



白根の久保さんの  
学校訪問